



## もったいないプロジェクト

まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を削減するため、「食品ロスゼロのまち促進事業」の実施により広く周知・啓発を進めるとともに、市内協力店の登録を開始し、現在では目標件数を超える登録をいただくことができました。

また、雑がみを始めとする資源化可能なものの徹底的な資源化を図り、再生利用家具、食器、玩具等の再使用を進めるとともに、クリーンセンターやリサイクルふれあい館エコロでのイベント等を通じて「もったいないの心」の定着に努めました。

### 《もったいないプロジェクト目標指標》

目標指標	基準値 (H24)	H30 目標値	H30 実績値
市民 1 人当たりのごみ排出量 (集団資源回収、事業系ごみ等は含まない)	616 g	578 g	575 g
総ごみ量に対するリサイクル率	26.7%	29.1%	28.8%

### 《プロジェクトを構成する重点事業》

1. 食品ロスゼロのまち促進事業  
(Re)
2. 最後までしっかり使用事業
3. トコとん資源化推進事業
4. もっと 3R 行動促進プログラム
5. 「もったいないの心」定着プログラム



### 《重点事業目標指標》

指標項目	基準値	上段：年次目標			下段：実績値	
		H24	H26	H27	H28	H29
食品ロスゼロのまち協力店舗数	—	50	80	100	150	200
		0	183	202	226	238
頒布再生品の利用者数	6,245	8,000	8,500	9,000	9,500	10,000
		5,144	9,441	10,575	14,727	14,982
総ごみ量に対する 「燃やせるごみ」の割合 (%)	69.6	68.0	66.0	64.0	62.0	60.0
		68.7	69.0	68.6	68.6	68.9
東西クリーンセンター及びリサイクルふれあい館エコロでのイベント等参加者数	3,496	5,000	5,250	5,500	5,750	6,000
		4,333	7,200	5,945	7,326	6,676
<b>3つのプロジェクト共通指標</b> ※共通指標のため、評価はスマートエネギープロジェクトで実施						
教育プログラムへの参加により、環境のために行動しようと思った人の割合 (%)	79.5	83.0	83.5	84.0	84.5	85.0
		80.1	82.0	74.5	91.1	81.0



## プラスチックごみ削減の取組み

海に流れ込むプラスチックごみが世界的に問題となっています。この海洋プラスチックごみの8割以上が、陸から流出していると言われています。海なし県に立地する本市においても、海洋プラスチックごみ問題を自分ごととして捉えなければなりません。

平成30年12月20日、藤本市長は、「マチごとプラスチックごみ削減」に取り組むことを宣言しました。市民一人ひとりに、今一度、プラスチックごみの発生抑制や適正処理に取り組んでいただくとともに、市のイベント等においてワンウェイプラスチックの使用量の削減を進める等、新たな取組みを開始しています。

### 1 マチごとプラスチックごみ削減宣言

まずは、市職員が率先して行うべく、ワンウェイプラスチックの使用削減や、マイボトル・マイバッグの使用推進等を呼びかけました。

#### 【マチごとプラスチックごみ削減宣言（一部抜粋）】

1. レジ袋など、ワンウェイのプラスチックをできるだけ使用しない生活に転換しましょう。
2. ごみの分別を徹底し適正に処理しましょう。
3. 審議会や検討会等で飲み物を提供する際には、マイボトルの利用や、ピッチャーでの提供を進めましょう。
4. 市が携わるイベントにおいて、事業者等と協力し、ワンウェイプラスチックの使用量の削減に取り組みましょう。

市職員が率先し、職場内外でプラスチックごみ削減に向けて行動！

#### 【行動例】

- 市主催の農産物直売イベントでマイバッグの持参を呼びかけ。
- 会議で、マイボトルの持参を呼びかけ。急須で入れたお茶出し。
- 職員の通常勤務時に、マイボトルを持参。



### 2 紙芝居『ひろいうみのおはなし』

子どもも一緒になって、プラスチックごみについて考えてもらうために、本市の保育士が紙芝居を企画・制作し、市立保育園で読み聞かせをしています。

『ひろいうみのおはなし』は、海の中の生き物が、ビニール袋を食べてしまったり、ストローが鼻に刺さってしまったりと苦しむ中で、この原因が人間であることが判明する物語となっています。

紙芝居を見た子どもたちからは、「ポイ捨てをしない!」「買い物にはエコバッグを持っていくよ!」といった力強い声が聞かれました。

子どもの見本となるように、毎日の行動を通じてプラスチックごみの発生抑制につなげていきたいですね。

紙芝居は、所沢市立所沢図書館で、貸出・閲覧が可能です。また、紙芝居の動画をYouTubeに公開しており、いつでも誰でも紙芝居を閲覧することができます。



YouTube

## 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

東京オリンピック・パラリンピックのメダルを使用済み携帯電話等の小型家電に含まれる金属から作る、東京2020組織委員会による世界初のプロジェクトです。

本市もこのプロジェクトに参加し、平成29年度から30年度の2年間で、金・銀・銅あわせて約409個のメダルに必要な金属量となる22,628個の携帯電話等を回収することができました。

ご協力いただいた皆様に、心よりお礼を申し上げます。



### 1 小型家電等の回収実績

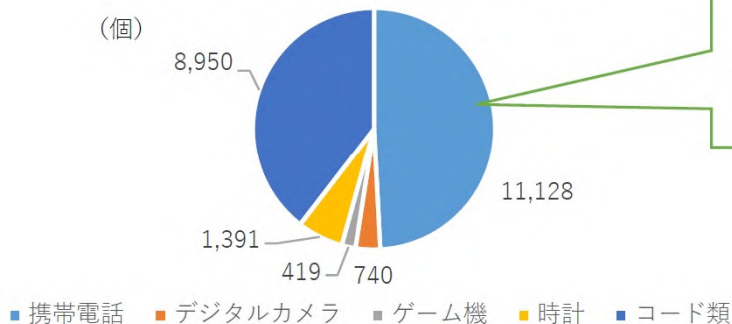
回収した小型家電の個数	
平成29年度	7,979個
平成30年度	14,649個
合計	22,628個

計算上、



**メダル 409 個分** (金または銀8個、銅メダル401個) に相当

回収した小型家電5品目の内訳



最も回収個数が多かった品目は

**携帯電話の 11,128 個** でした。



### 2 秋草メダルレンジャーとの連携

「官学連携に関する基本協定」に基づき、学校法人秋草学園（秋草学園短期大学・秋草学園高等学校・秋草学園福祉教育専門学校）の学生（合計68人）を「秋草メダルレンジャー」に任命し、市民の皆様の3Rへの意識向上、メダルプロジェクトの周知を目的として、様々なイベントで小型家電の回収にご協力いただきました。

また、文化祭での回収や校内の回収ボックス常設にもご協力いただきました。



## 生ごみ減量化・資源化推進事業

家庭の生ごみの減量化・資源化を図るため、生ごみの水切りによる減量を啓発するとともに、生ごみ処理機器等の購入に対し奨励金を交付し、生ごみの自家処理を普及推進しています。

また、協力自治会内の生ごみを回収し、堆肥化する生ごみ資源化のモデル事業を実施しています。



### 1 生ごみ減量化・資源化推進奨励金交付制度

家庭から出る生ごみの減量化・資源化を推進するため、生ごみ処理機等を購入し、日常生活の中で排出される生ごみの減量または資源化に自主的に取り組む方に奨励金を交付しています。

種別	交付件数	H26	H27	H28	H29	H30
電気式		31	17	55	64	66
コンポスター		42	13	31	24	26
EM 容器		33	13	34	22	17
通気式		0	0	0	0	0
その他		3	2	7	7	4
合計		109	45	127	117	113

### 2 生ごみ減量化・資源化アドバイザー

生ごみの自家処理に精通した市民5人をアドバイザーに委嘱し、生ごみ処理機器の使用方法等についての相談に対応しています。また、アドバイザーを講師とする生ごみ減量化・資源化講演会を実施しています。



	H26	H27	H28	H29	H30
実施回数	5	7	8	6	7
参加人数	63	215	127	151	208

### 3 生ごみ資源化推進事業

市内の養豚事業者に、市内の10自治会及び市の公共施設で発生した生ごみの回収を委託し、堆肥化しています。製造された堆肥は、いるま野農業協同組合で販売され、その堆肥を使用して育てられた農作物の一部は地元で消費されています。

年度	H26	H27	H28	H29	H30
参加世帯	1,006 世帯	1,007 世帯	1,007 世帯	1,007 世帯	1,007 世帯
回収量	81.6 t	81.3t	73.6 t	70.1 t	70.8 t



## 食品ロスゼロのまち促進事業

食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品を「食品ロス」と言い、日本では年間 643 万トン\*も発生しています。

本市では、平成 26 年度より「食品ロスゼロのまち促進事業」を開始し、「食品ロスゼロのまち協力店」の登録、「食べきりタイム」の導入、小学校における出前授業等、「食のもったいない」をなくす取組みを行っています。

※環境省の報道発表「我が国の食品廃棄物等及び食品ロス発生量の推計値（平成 28 年度）の公表について」より

### 1 食品ロスゼロのまち協力店

食品ロスの代表格である食べ残しを減らすべく、平成 27 年 4 月より「食品ロスゼロのまち協力店登録制度」を実施しています。食品ロス削減を実践する市内の飲食店を、協力店として登録するとともに、その取組み内容を紹介することで食品ロス削減の啓発を図りました。



#### 【協力店の登録要件】

- 以下のいずれか 1 つ以上を実践していること
- 食べきりサイズでの料理提供
  - 残した料理の持ち帰りに対応可能
  - 食べ残しを減らすための案内
  - その他食品ロスを減らすための工夫

#### 【協力店登録件数（累計）】

平成 27 年度	183 店舗
平成 28 年度	202 店舗
平成 29 年度	226 店舗
平成 30 年度	238 店舗

### 2 トコとん!! クッキング

購入した食品を食べずに廃棄する手つかず食品と、野菜等の皮を必要以上に厚むきして可食部まで廃棄する過剰除去の 2 つは、家庭から発生する食品ロスの大きな要因です。

平成 27 年 10 月より開始した「トコとん!! クッキング推進事業」においては、市内で日本料理店を経営し、所沢市環境推進員の活動経験のある川田正昭さんを講師にお迎えして、食材を無駄なく使うレシピの紹介を行いました。



#### 【公開レシピ一覧（H27～H30）】

レシピはコチラ

大根と人参のなます	豆腐と長ネギのふわとろハンバーグ&卵煎り豆腐	セロリの葉のかき揚げ
大根の葉の酢漬け	酢ごぼう	余り野菜を使って煎り豆腐
大根と人参の皮と葉の酢漬け	柚子りんご	いろいろ野菜の皮のカリカリチップ
丸ごとじゃがいもコロケ	かぶと葉の漬けもの	トマトのバターライス
茶がらの佃煮	さつまいもごはん&天ぷら	ブロッコリーの茎でゴマみそ和え



## 集団資源回収報償金交付事業

市民の日常生活から排出される廃棄物の中で、再利用できる資源の回収を促進することを目的として、平成3年4月から実施しています。

自主的に資源回収を行う自治会、子ども会等の市内の非営利団体に対し、回収実績に応じて報償金を支払っています。平成30年度末時点で、515団体が資源回収実施団体として登録されています。

### 【報償金の交付対象となる資源物】

- 新聞
- 雑誌・雑がみ
- 段ボール
- 布類
- スチール缶
- アルミ缶
- 紙パック
- 生きびん\*

※「リターナブルマーク」の付いた再使用可能なびんを指す。



## 1 報償金の交付金額及び回収量の実績

平成26年度の報償金単価は、回収量1kgにつき5円\*でしたが、資源の回収をさらに推進するため、平成28年4月から単価を1kgにつき6円\*に増額しました。

参加団体は増えてきましたが、回収される資源の量は減少傾向にあります。市全体の廃棄物が年々減量していることが原因と考えられ、廃棄物の減量に比例して、その中に含まれる資源物も減量するためです。

特に新聞は、インターネットの普及により発行部数が減少の一途を辿っており、また、「雑がみ」にあたる紙製容器包装や飲料缶においても、パッケージの薄肉化技術の発展で、回収量は減少傾向にあります。

※生きびんのみ、1kgではなく1本単位で報償金を交付

### 【報償金交付実績】

平成26年度	55,819,800円
平成27年度	55,660,910円
平成28年度	67,701,852円
平成29年度	65,520,276円
平成30年度	65,092,890円

### 【年度別回収量実績】

単位：トン

品目	H26	H27	H28	H29	H30
新聞	5,555	5,457	5,351	4,951	4,728
雑誌・雑がみ	3,133	3,121	3,222	3,175	3,241
段ボール	2,097	2,156	2,305	2,386	2,482
布類	253	263	270	271	272
スチール缶	7	9	8	7	8
アルミ缶	108	115	109	106	101
紙パック	10	10	18	20	17
生きびん	1	1	1	3	1

## 所沢市ごみ分別アプリ「わけトコっ！」

主に若年層をターゲットとした新たなごみ分別の周知方法として、平成26年5月に、スマートフォン用ごみ分別アプリ「わけトコっ！」の配信を開始しました。

平成30年度末時点で、累計ダウンロード数は29,064件となりました。

### 【アプリの主な機能】

- 居住地域の収集日カレンダー表示
- ごみ出し忘れ防止アラート機能
- ごみの分け方・出し方の説明
- ごみ分別辞典
- 資源物の拠点回収マップ

※アプリの愛称「わけトコっ！」は、一般公募で決定しました。



## エコロまつり

“もったいないの心”を定着させるため、エコロまつりを年3回開催しています。

地域のもったいない市や東所沢エコステーション・リサイクルふれあい館で受け入れた資源物から選別した古着・陶磁器・和服等を頒布することにより、リユース(再使用)の推進と3Rの啓発を図るとともに、リサイクルふれあい館を広く市民の皆様様に周知することを目的としています。

### 【来場者数実績】

H26	H27	H28	H29	H30
3,798人	4,565人	5,068人	5,604人	5,265人

